

令和3年度 春日保育園における自己点検、自己評価書

本園の保育、教育全般を総合的に評価し、次年度に生かすことを目的にして取り組みました。項目ごとに保育を振り返り、評価を記述しました。ご意見、ご感想などお聞かせください。

	自己評価の観点	主な自己点検の内容	保育の振り返り 自己評価
1	専門職として、基本的な心構えを持っている	<ul style="list-style-type: none"> 心地よい身だしなみ、明るい笑顔、挨拶を心がけている 自身の健康管理と情緒の安定を心がけている 研修に参加したり専門書を読むなどして、保育に関わる様々な知識や技能の向上に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス予防のため、常にマスクを着用しており表情が伝わりにくいので、声のトーンや明るさを意識した挨拶や会話を心がけた。 新型コロナウイルスが市内でも流行したため、家族を含め、手洗い、うがい、消毒、マスク着用など、感染予防や体調管理に留意した。やむを得ず外出した場合は、無料検査等を利用し感染拡大の予防に努めた。 マイナスの言葉かけをプラスの言葉かけに言い換えるように心がけることで、自身の情緒の安定にも繋がったので、これからも意識していきたい。 子どもの発達、気になる子へのかかわり方、乳児保育や離乳食、アレルギー等、専門書を参考にしたり、研修会に参加して理解を深めるようにした。園内研修の場でも情報の共有に努めた。
2	子ども一人ひとりの理解を深め、受容しようと努めている	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの思いを大切にしながら対応している 子どもが、安心して話せる雰囲気をつくっている 子どもにわかりやすい温かな言葉遣いや表情で穏やかに話しかけている 「早くしなさい」とせかす言葉や「だめ」「いけません」など、制止や禁止の言葉を不用意に用いないようにしている 「できない」「やって」など、言ってくる子どもに対して、子どもの状況に対応している 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが思いを伝えてきた時は、ゆくり聞くようにし、先入観で判断しないように気をつけた。思いを上手く言葉にできない時には、代弁して思いを表現できるようにした。 0才児…言葉を代弁して思いを聴き、身振りや喃語の雰囲気から思いを読み取り応えるように努めた。 1才児…子ども同士のトラブルを制止する時は、子どもの思いを代弁し気持ちを受け止める言葉かけを心がけた。 1,2才児…子どもの要求をおおらかに受け止めるように心掛け、泣いたり気持ちの切り替えがうまくできない子には、気分をかえられるような言葉かけや対応を工夫した。 2歳児…情緒不安のため、甘えの思いが強い子には、気持ちを受け止めながら「一緒にしよう」等声をかけるようにした。繰り返しの支援で自立につなげていきたい。 年少児…身支度や活動の準備に時間がかかる子やには、「準備ができたなら〇〇するよ」「〇〇したら●●しよう」など前向きな声かけを心がけた。 年少組…できるようになった事をしっかりと認めたり褒めたりして、自信へ繋げてるようにした。 年中児…ともすれば、一日の流れの中で業務をこなすことに気持ちが偏ってしまい、子どもの思いに対応できていない事もあったが、子どもの発達に合わせた個別の配慮や、子どもが自信を持てるよう心がけた。 年長児…自分の思いを出せない子や遠慮したり我慢している様子が見られる子には、気持ちが伝えやすくなるような雰囲気を作り、声を掛けるようにした。 年長児…トラブルの場面で、無理に解決しようとするのではなく、手を握ったり抱きしめたりスキンシップを取りながら思いを聞くことで、安心してコミュニケーションができるようになった。
3	遊びや生活を通して人間関係が育つように配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをしている 喧嘩の場面では状況を適切にとらえ、双方の思いを大切に对应している 年齢に応じた社会的ルールを身につけていくように配慮している 子どもが保育士の手伝いをしたり、友達を助けたり、協力しあう場を持つようにしている 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 0歳児…一人遊びが多いが、友だちへの興味を持ち始め、楽しそうに関わって遊ぶ姿が見られる時もある反面思うようにいかないと泣いたり、おもちゃを取り合うこともあるので、やり取りを代弁し、仲立ちをした。 1歳児…友達と関わって遊ぶことが楽しいと思える子が増えてきたので、保育者もいっしょに関わり、その場に応じた見守りや援助をするように心がけた。 1才児…おもちゃの貸し借りでは「まだ使いたい」「早く貸して欲しい」という双方の思いを受け止めながら、状況に合わせて仲立ちし、気持ちの折り合いをつけていく言葉掛けを努めた。 2歳児…友だちとトラブルがおきた時、保育者に自分なりの理由を伝えようとする子の話しを受け止めつつ、相手にも思いがあることに気付くような声かけをした。 年少児…友達同士で関わりがもてるようなあそびのコーナーを準備した。また、ルールのあるゲームや体を動かすあそびをすることで友だちと誘い合っあそぶ姿が見られたあそびの中で友だちとのトラブルが起きたとき、どうしたら良いかお互いに考え、解決の仕方に気付くような問いかけを試みた。 年中児…子どもの発達状況によって理解力に違いはあるが、丁寧に関わり、手伝いを喜んだり、協力し合う場を作るようにした。 年長児…友達と相談し、教えあって遊びを展開する場面が増えてきたので、トラブルがあった際も、お互いの思いを伝え合う場をつくるようにした。相手の思いを知り、受入れ、折り合いをつけるよう見守り援助した。

	自己評価の観点	主な自己点検の内容	保育の振り返り 自己評価
4	乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと関わっている しぐさや声や動きを介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答している 身体を適度に動かす遊びやリズムを伴ったふれあい遊びを十分にしている 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士はマスクを着用しているが、マスクをしていても伝わる表情や笑顔、声で、心に寄り添うよう心がけた。 目の表情にも気をつけ、表情が子どもに分かりやすいようにした。 0歳児…一対一の関わりやふれあいを大切に、暖かい雰囲気に関わるように気をつけた。 1歳児…抱っこやふれあい遊びを通して信頼関係を築くようにした。 1歳児…体操や手遊び、歌あそび、わらべ歌あそび等、子どもと一緒に楽しむようにした。 1才児…自分でやりたい気持ち強い子には、見守り、できないところを声かけし、自立につながる援助に努めた。
5	保護者の支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 園や家庭での様子を伝え合う中で、子どもの育ちを保護者と共に考え、喜び合うことができている 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園に入園した子どもだけでなく、保護者も不安を抱えているので園での様子をしっかりと伝え、安心感を持てるように関わった。 園での様子を伝えながら、家庭でも一緒に行って欲しいことは丁寧に伝え、園と家庭で連携して子どもの育ちを援助していけるように努めた。 子育てや発達について保護者から相談があった時は、保護者の思いを受け止め、保育園での様子を伝え、家庭でできることをアドバイスし、希望であれば相談機関との調整も行った。 園で怪我をした時は、その状況や対応を丁寧に分かりやすく伝え、真摯にお詫びをするようにした。 連絡帳を書く際は、誤解を生じないような書き方を心がけ、成長を共に喜び合い信頼関係を作る内容を心がけた。 進級や就学に向けて、成長したことや出来るようになった事を伝える機会を多く持った。家庭でも、もう一度褒めて成長を喜び合って欲しい思いを伝えた。
6	職員間の連携が取れている	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを分かりやすく伝えたり、相手の意見を聞くように努めている 保育について、報告、連絡、相談がなされ、意思統一ができています それぞれの役割を把握し、突発的な状況に対して、適切な対応ができるように努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で、こまめに報告、連絡、相談に心がけた。(子どもの様子で気になった事、子どもが怪我をした時、保護者からの連絡、保育内容、感染症流行予防対策等) 3歳未満児…チームワークよく保育が進められるよう「自分が今なくてはいけない役割は何か」を考えながら行動した。また、お互いに声をかけ合い、臨機応変に補い合うよう努めた。 3歳未満児…子どもができるようになった事や育ちを伝えあい、喜びを共有し、共通の関わりがで切れるよう心掛けた。 3才児、3歳未満児…複数担任の利点を生かし、一人ひとりの育ちについて定期的に伝え合う時間をもち、新たな面に気付いたり、確認しあうようにした。 他の保育士からアドバイスをもらったことは実践、反省を行いながら、より良い保育をしていけるように心掛けた。 アレルギーや感染症についての知識を深め、早期発見や予防のため、適切な対応ができるように備えた。 新型コロナウイルスまん延防止のため、専門機関との連携、保護者への連絡、おもちゃや保育室の消毒など、職員間で連携を取り対応した。
7	給食栄養士、調理員の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 給食は、子どもたちが発達していく上で、極めて大切なものであることを理解し、日常の業務を行なっている 園長、保育士とのコミュニケーションが取れている 子どもが給食を楽しみだと感じるように配慮している アレルギーのある子どもに対して、個別の状況に応じて適切な対応が取れている 乳児一人ひとりの育ちについて職員間で連携を取り、それぞれにあった離乳食をつくっている 子どもの様子を見たり、子どもや担任の話聞く機会を設けている。また、検食簿を参考にして献立や調理の工夫に反映している 厨房の設備等の安全点検を定期的実施している 給食を作る際、健康や怪我をしないよう気をつけ、安全衛生に細心の注意をしている 厨房の清掃や整理整頓、換気、採光、室温に気をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 給食を楽しみと感じられるよう、味付け、色取りや盛り付けを考えた献立を立て、発注にすることが課題である。 和食の良さを見直し、和え物、煮物なども取り入れるようにした。 食材の搬入、洗浄、調理、温度管理に留意し、安全な給食が提供できるよう細心の注意をした。 家庭での食生活の中で、献立の偏りや偏食などのため発達に必要な栄養が補いきれていない子も見受けられる。友達と一緒に食事をする中で発達に必要な栄養が取れるような食育を工夫した。 アレルギー児への給食は、個別の状況を把握し、職員間で確認し合い提供するようにした。 食品のアレルギー表示や成分表に留意し、安全かどうか、よく確認するよう気をつけた。 離乳食が始まった子どもの食事は、給食室、担任、家庭で、量や柔らかさなど連絡を取り合いながら進めるようにした。 子どもの健康状態や食事の進み具合、残食があった時の様子など担任に確認し、日誌や検食簿に記入し次に生かすようにした。 コロナ禍で黙食となり、子どもたちが食べる様子をしっかりと見ることができず、子どもとコミュニケーションを取りにくかったことは残念だった。 厨房の証明をLEDライトに交換したので明るくなり調理しやすくなった。 器具の紛失など無いように、収納の際は個数を確認することを習慣づけた。 事故のないように緊張感を持って、丁寧な仕事をするよう気をつけたい。 厨房の清掃、換気には常に気を配った。

	自己評価の観点	主な自己点検の内容	保育の振り返り 自己評価
7	給食栄養士、調理員の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 給食調理が衛生的かつ安全に行なわれるように、食中毒や感染症の防止に努めている 複数調理員で調理の分担を確認し、共通理解して調理することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 事故のないように緊張感を持って、丁寧な仕事をするよう気をつけた。 調理員が体調を崩さないように、体調管理や感染症に気をつけた。 お互いに声をかけ合い、復唱して確認し、共通理解しながら給食作りに取り組んだ。問題点や分からないことは相談し不安を感じながら作業することが無いように心掛けた。無事故で作業を進めることができるようにしていきたい。
8	園長、主任の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 保育の基本 保育課程の編成 健康 安全管理 保護者支援 資質向上に向けた姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、新型コロナウイルスまん延防止のため保育園の行事、職員の研修、日々の保育内容等、注意する意識を職員間で共有した。制限がある中で、子どもが楽しめる保育について職員間で話し合い工夫した。 保育への苦情はなかったが、「子どもを置き去りにし保育者の都合で進める保育」に偏らないよう自己点検していきたい。 保育課程を見直し、年齢ごとの年間計画をエクセルで作成した。内容については、各年齢の担任間や主任保育士も交え検討を重ねた。ベテラン保育士と若手保育士が連携、協力し、作成することができたことも成果である。 新型コロナウイルスが、市内で流行し、市役所や保健所と連携し、まん延防止に取り組んだ。初期段階での対応を誤ることが無いように注意を払った。多数の園児の密集を避け、早朝や延長保育もできるだけ少人数で過ごすように配慮した。 室内やおもちゃの消毒などもこまめに行った。 職員自身も感染予防に注意を払い、毎日検温し外出後のPCR検査、予防接種なども受けるようにした。 市役所子育て支援課、健康増進課の保健師、発達支援センターと連携し、子どものより良い発達のための相談や保護者支援に努めた。 園内研修の際は、主任保育士からも新しい保育の考え方や情報の資料を配布し、職員間で読み合い、共通認識を醸した。 キャリアアップ研修を計画的に申し込み、受講を勧めている。受講した職員は、園内研修で復命し、保育に生かした。